

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	がん撲滅の未来を目指して
別タイトル	Department of Clinical Oncology, Faculty of Medicine, Toho University ~ Toward a Future of Cancer Eradication ~
作成者(著者)	菊池, 由宣 / 中村, 陽一
公開者	東邦大学医学会
発行日	2023.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 70(1). p.34 35.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2022 043
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD66337562

教室(診療科)紹介(137)

がん撲滅の未来を目指して

臨床腫瘍学講座

教授：島田英昭
 教授：中村陽一
 准教授：菊池由宣
 助教：平沼彩子

教室の歴史と組織

本邦では2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで死亡する死亡原因の第1位の疾患である。それゆえ国はがん対策基本法を2007年4月より施行した。同時期に文部科学省でもがん専門医の育成の必要性を感じ2007年に開始された第1次の「癌プロフェッショナル養成プラン事業」

では東邦大学もインテンシブコースとして採択されたが臨床腫瘍学講座を設立するまでの気運は高まっていなかった。転帰は2012年から5年間の事業で開始された第2次の「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事業」に採択されたことを受け、臨床腫瘍学講座は2012年8月1日に大学院医学研究科で設立された。その後、第3次の「多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン事業」の採択とともに2017年4月1日付で医学部にも臨床腫瘍学講座が設立された。初代の主任教授として一般・消化器外科教授の島田英昭が就任した。

臨床腫瘍学講座は教育では医学研究科、医学部および薬学部において腫瘍学の講義を担当し、研究面においては消化器疾患を中心とした臨床研究を行い、臨床面においては緩和ケア専門医の中村教授が緩和ケアセンター長として、またがん薬物療法専門医の菊池准教授が化学療法センター長として配属され、その運用に携わっています。

緩和ケアセンター

臨床腫瘍学講座では大森病院の緩和ケア診療を担当している。その沿革は2001年に院長直属の組織として緩和ケアチームが発足し、2009年緩和ケアセンター（初代センター長：戸倉夏木講師（外科学講座））が設立した。2010年6月からは2代目センター長、大津秀一助教（総合診療内科）が担当した。2018年8月に中村陽一（当時臨床腫瘍学講座



緩和ケアセンター実績 過去5年（表1）

年度	2021	2020	2019	2018	2017
入院患者依頼件数 (前年度末継続を含む)	500	483	394	349	339
入院 非がん患者依頼 件数（新規）	40	40	24	11	13
緩和ケア診療加算 (がん)	4039	3445	3380	3293	3020
外来延べ患者数	518	538	359	145	146
外来緩和ケア加算	182	206	124	60	49

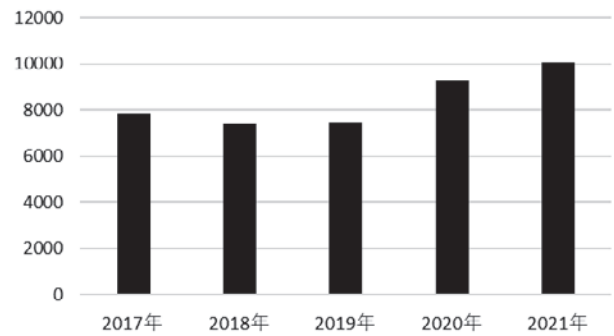
准教授、2020年7月教授昇任）が3代目センター長として、同時に平沼助教が大森病院緩和ケアセンターと佐倉病院外科・緩和ケアの兼任医師として着任した。

卒前教育で緩和ケアは4年時の基本臨床実習の必修科目となっており、すべての医学生が緩和ケアセンターでの臨床を学修している。治癒が困難である患者について学ぶ貴重な機会となっている。

緩和ケアセンターの過去5年の診療実績を表1に示す。大きく全国登録（2020年度：全国平均189件、東京都平均287件）を超える入院患者依頼があり、2021年度には年間500件となった。緩和ケアは、がん診療を中心に発展してきたが、近年は非悪性疾患の緩和ケアも重視されており、今後、さらなる拡充が必要と考える。

化学療法センター

化学療法センターは2009年6月に初代センター長として一般・消化器外科教授の金子弘真教授が就任し、当時は1号館2階の中央点滴室で行う小規模なセンターとして産声を上げました。2010年4月より1号館3階病棟を改装し、



外来化学療法室過去5年間の使用件数（図1）

47床のベッドを有する大規模なセンターに変貌し、2代目センター長として血液・腫瘍科の名取一彦准教授が就任されました。2020年11月より3代目のセンター長として臨床腫瘍学講座の菊池由宣准教授が現在就任しております。

2020年11月より化学療法センターは「安心・安全・そして最先端の化学療法」を標語に専任のがん化学療法認定看護師とがん薬物療法認定薬剤師を含むスタッフで運営しています。主な業務は各診療科で診察したがん患者さんの点滴管理を行っております。点滴中に発するアレルギーや有害事象に対する処置も行っています。また新規薬剤の承認に関して月1回の外来化学療法委員会を開催し、新規薬剤のレジメン登録の承認を行っております。

外来化学療法室の過去5年間の使用実績件数を図1に示す。コロナ感染下にも関わらず2020年以降、外来化学療法使用件数は増加傾向にあります。

（菊池由宣，中村陽一）

DOI：10.14994/tohoigaku.2022-043